

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援 実習機材寄贈先の高校を訪問 馳知事に目録贈呈

全国44の経済同友会による震災復興に向けた共同事業「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援」は9月11日、第2期活動で支援した専門高校の視察および贈呈式を行った。第2期活動では、約3,507万円のご厚志をお預かりし、石川県立七尾東雲高等学校を中心に各種実習機材を寄贈した。七尾東雲高校の訪問では、大森久子校長の挨拶・説明の後、実習授業の様子と寄贈した実習機材を見学した。その後、馳浩石川県知事を訪問し、感謝状を受領するとともに懇談を行った。(所属・役職は実施時)



石川県庁にて馳知事(左から2人目)に目録を贈呈

七尾東雲高校を視察 プロジェクトで人材育成に寄与

訪問先の七尾東雲高等学校で挨拶に立った加藤博共同委員長は、「IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは東日本大震災を契機にスタートし、能登半島支援は2期目を迎えている。全国44の経済同友会が3期で約9,000万円の寄附を目指して取り組んでいる」と述べた。また、自社のグループ会社の工場および従業員が能登半島地震で被災した経験から地域復興の重要性を強調し、「プロジェクトが若者の学びを支援し、地域の人材育成に寄与することを目的としている」と語った。

実習機材を贈呈された同校の大森校長はプロジェクトへの感謝の意を表すとともに、「プロジェクトが原形復旧の原則により手が届きにくい専門高校にとって重要な役割を果たしている」と述べた。また、「能登半島地震の際には、プロジェクトが支援した宮城県農業高校から温かいメッセージとともにお米などの支援をいただいたことが感慨深かった」と語った。

七尾東雲高校は、専門高校3校が合併して設置され、地元との所縁が深い。地域に密着した人材育成に重点を置き、多学科の強みを活かして生徒の能力を

育んでいる。機械システム科や演劇科、総合学科(農業系列、ビジネス系列)などの専門教育を行い、地域のニーズに応じた実践的な学びを提供している。震災後、ビジネス系列では和倉温泉の復興をテーマに学習を進め、演劇科では七尾市内の文化ホールで定期公演を行い、地元住民を元気づけた。

震災の影響で多くの生徒が登校できなかったが、教職員が個別に支援し教育を継続するとともに、各学科・系列でできる復興支援を行った。大森校長は、「専門高校として技術の継承や安全教育等の揺るがないものと、時代に即して変えていくべきものの

見極めが課題であり、本校が震災後の能登や七尾地域で果たす役割は何かを、防災学習を通じて考えていく必要がある」と述べた。

また、石川県庁で行った贈呈式では馳石川県知事に目録を贈呈するとともに、感謝状を受領した。馳知事は、「県の予算が限られている中で、教育現場に多大なる支援をいただいている大変助かっている」と感謝の意を述べた。



七尾東雲高校の生徒たちと

視察・贈呈式

■行 程

- 10:10~11:30 石川県立七尾東雲高等学校訪問
大森久子校長による挨拶・説明に続き、実習機材・実習授業を見学
- 14:00~14:20 贈呈式(石川県庁)
馳浩石川県知事への目録贈呈、懇談

■参加者

- 加藤 博 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援運営委員会 共同委員長／中部経済同友会 代表幹事(ノリタケ 取締役会長)
- 田中 喜好 中部経済同友会 専務理事・事務局長
- 富森 浩治 関西経済同友会 常任幹事・事務局長